

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

フィリピン中銀は金利据え置きを継続 (Asia Weekly (2/8~2/12))

~マレーシアで生産底入れの動きも、先行き不透明感はくすぶる~

発表日: 2016年2月12日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

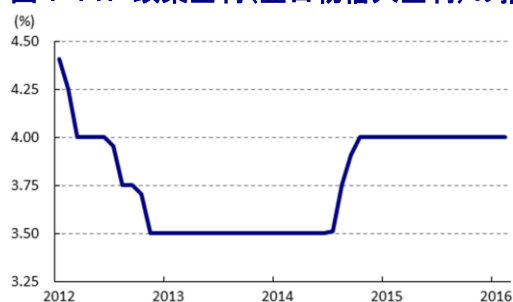
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
2/8(月)	(インド)10-12月期実質 GDP(前年比)	+7.3%	+7.1%	+7.5%
2/11(木)	(マレーシア)12月鉱工業生産(前年比)	+2.7%	+1.0%	+1.8%
	(フィリピン)金融政策委員会(翌日物借入金利)	4.00%	4.00%	4.00%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【フィリピン】 ~インフレが低位で推移するなか、先行きも暫く現行のスタンスを維持する可能性は高い~

11日、フィリピン中央銀行は定例の金融政策委員会を開催し、政策金利である翌日物借入金利及び翌日物貸出金利を11会合連続でそれぞれ4.00%、6.00%に据え置く決定を行った。短期特別預金口座(SDA)に対する適用金利も2.50%に、預金準備率も20.00%にともに据え置かれている。足下のインフレ率は低位で推移するなか、同国経済は内需主導による堅調な拡大が続くと見込まれるものの、来年にかけてインフレ率は3±1%の目標域に収まるとの見方を示しており、インフレ見通しを巡るリスクについてもこれまでに比べてやや下方バイアスが掛かっているとの認識を示している。なお、先行きの物価を取り巻くリスクとしては、上方にはエルニーニョ現象に伴う食料品価格の上昇や電力料金をはじめ公共料金の引き上げ先送りの反動がある一方、下方には世界経済のさらなる減速や原油価格のもう一段の低下を挙げている。こうしたことから、同行は先行きもしばらくは現行の政策スタンスを維持する可能性は高いと予想される。

図1 PH 政策金利(翌日物借入金利)の推移

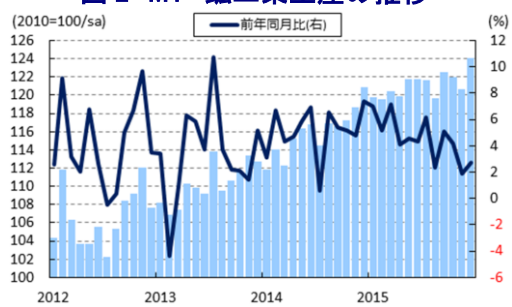


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【マレーシア】 ~製造業や鉱業部門など幅広い分野で生産底入れも、先行きを巡る不透明感はくすぶる~

11日に発表された昨年12月の鉱工業生産は前年同月比+2.7%となり、前月(同+1.8%)から伸びが加速した。前月比も+2.8%と前月(同▲1.1%)から3ヶ月ぶりに上昇に転じており、製造業で生産拡大の動きが出ているほか、調整局面が続いた鉱業部門の生産も底打ちするなど、幅広い分野で生産拡大の動きが広がっている。なお、同国経済は輸出額のGDPに対する比率が極めて高いなど輸出依存度が高いなか、足下の輸出動向を巡っては中国経済を取り巻く不透明感などを背景に調整圧力が掛かっており、先行きについても厳しい環境が続く可能性が高い。さらに、原油をはじめとする国際商品市況も足下では一段と下値を探る動きが出ており、関連産業にとっては生産拡大に動きにくい環境が続いている。こうしたことから、先行きにおける鉱工業生産は力強さに乏しい展開が続くと予想される。

図2 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 MY 実質輸出の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上